令和 5(2023)年 4 月 2 日(日)

ハナノキ・ヒトツバタゴの説明板更新

「ハナノキ及びヒトツバタゴ整備計画」の最後の作業の「説明板の設置」が完了しました。

新しく参道横に設置された説明板

手前の幼木がハナノキ、後ろがヒトツバタゴ

国指定天然記念物
白山神社のハナノキおよびヒトツバタゴ

ハナノキとヒトツバタゴは日本国内において、東海地方の湿地帯を中心としたごく狭い範囲でしか分布せず、植田邦彦らが提唱した「東海丘陵要素植物」と呼ばれる植物種群に属しています。両種とも自生する個体数が少なく、今後さらなる減少も危惧されていることから、環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(ＶＵ)に指定されています。「白山神社のハナノキおよびヒトツバタゴ」はこの二種が共生する希少な場所として、昭和十八年二月十九日に国の天然記念物に指定されました。

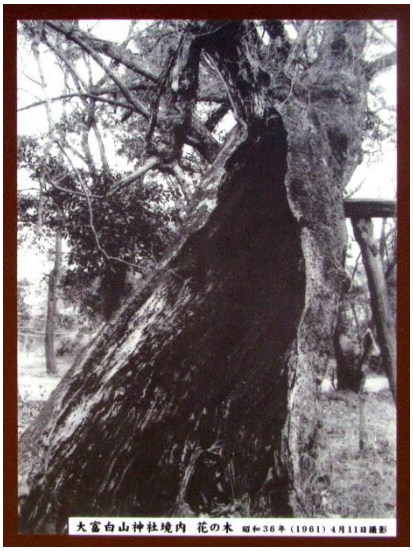
ハナノキ(学名:Acerpycnanthum K.Koch)

ハナノキはカエデ科の樹木です。四月頃に赤い花を咲かせ、紅葉も赤であるため、別名「ハナカエデ」とも呼ばれています。かつて、指定地には天然記念物に指定されたハナノキが自生していましたが、平成十九年に枯死しました。現在、指定地内に存在するハナノキは、指定ハナノキのクローンであり、「国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター」によって元のハナノキの枝から組織培養されたものになります。これを譲り受けて、令和四年三月に指定地内への移植が行われました。本種は雄株と雌株が存在する「雌雄異株」ですが、このハナノキは雄株と考えられています。

ヒトツバタゴ
(学名:Chionanthus retusus Lindlet Paxton)

ヒトツバタゴはモクセイ科に属する樹木であり、五月頃になると、梢頭に白い花を雪の積もっているように咲かせます。木の形状がタゴ(トネリコ)に似ており、葉が単葉であることから「ヒトツバタゴ(一つ葉タゴ)」と命名され、「ナンジャモンジャ」の愛称でも親しまれています。街路樹などとして植栽されることもありますが、国内での自生木は東海地方の一部と対馬でしかみられません。指定地内には指定対象の個体をはじめ、実生更新した複数の個体が群生しており、中には樹齢百年を越えるとみられるものもあります。本種は雌雄両性株と雄株が存在する、「雄性両全性異株」であると考えられています。また、ヒトツバタゴは土岐市の「市の木」にも選定されています。

令和五年三月　土岐市教育委員会



大富白山神社境内　花の木
昭和 36 年(1961)4 月 11 日撮影

ヒトツバタゴの新芽が見えます。
４月下旬には雪が積もった様な景色がみられます。

神社内の桜がきれいに咲いています。